

< 配意事項及び運用上の工夫について >

(1) 教科担任制																																																	
学校の実情に応じて教科担任制の実施時期を遅らせて実施することも可能。																																																	
例) 学級づくりが必要な年度当初は学級担任制で、準備が整ってから教科担任制をスタートさせるなどの工夫が考えられます。但し、少人数授業（同室複数指導も含む）については4月当初から実施しなければなりません。																																																	
年間の行事予定等に対応しながら、 <u>学級担任制と教科担任制を使い分けることも可能。</u>																																																	
例) 自然学校、プール指導、運動会や音楽会の準備期間など、授業変更が頻繁に行われる時期には計画的に学級担任制で行うこともできます。																																																	
(2) 少人数指導																																																	
学校の課題に応じて、 <u>少人数授業の実施学年を拡充することも可能。</u>																																																	
例) 学校の課題に応じて、5・6年生の少人数授業を各学年1教科に絞るなどで実施し、その他の時間を低・中学年の指導に使うこともできます。このとき、他学年を担当する時数が5・6年生を担当する時数を上回らないようにするなど、本来の目的加配の意義を逸脱しないよう留意が必要です。																																																	
(3) 時間割編成、その他																																																	
時間割の編成にあたっては、 <u>交換授業の教科選択については注意が必要。</u>																																																	
5・6年合計3学級や5・6年のどちらかが3学級（奇数学級も含む）の場合、交換授業の教科選択によっては時間割編成が煩雑になる場合があります。例えば3学級の場合、理科、社会、体育等で交換すれば時間割変更が容易な一方、それ以上の教科を含めて交換した場合には時間割変更が煩雑になることもあります。また、交換授業が増えると学級担任が自学級を離れる時間が増加することから、児童の実態や発達段階を考慮し時間割を検討することが重要です。																																																	
時間割編成が比較的しやすいシンプルな授業交換例																																																	
<table border="1"> <thead> <tr> <th>年組</th> <th>担任</th> <th>国語</th> <th>算数</th> <th>理科</th> <th>社会</th> <th>音楽</th> <th>図工</th> <th>家庭</th> <th>体育</th> <th>外国語</th> <th>総合</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>5年1組</td> <td>A</td> <td>A</td> <td>A/新</td> <td>B/新</td> <td>A</td> <td>外</td> <td>A</td> <td>外</td> <td>C</td> <td>A</td> <td>A</td> </tr> <tr> <td>5年2組</td> <td>B</td> <td>B</td> <td>B/新</td> <td>B/新</td> <td>A</td> <td>外</td> <td>B</td> <td>外</td> <td>C</td> <td>B</td> <td>B</td> </tr> <tr> <td>5年3組</td> <td>C</td> <td>C</td> <td>C/新</td> <td>B/新</td> <td>A</td> <td>外</td> <td>C</td> <td>外</td> <td>C</td> <td>C</td> <td>C</td> </tr> </tbody> </table>	年組	担任	国語	算数	理科	社会	音楽	図工	家庭	体育	外国語	総合	5年1組	A	A	A/新	B/新	A	外	A	外	C	A	A	5年2組	B	B	B/新	B/新	A	外	B	外	C	B	B	5年3組	C	C	C/新	B/新	A	外	C	外	C	C	C	
年組	担任	国語	算数	理科	社会	音楽	図工	家庭	体育	外国語	総合																																						
5年1組	A	A	A/新	B/新	A	外	A	外	C	A	A																																						
5年2組	B	B	B/新	B/新	A	外	B	外	C	B	B																																						
5年3組	C	C	C/新	B/新	A	外	C	外	C	C	C																																						
仮に上記の3教科（理科、社会、体育）で交換授業を行った場合、標準の年間授業時数は6年で理科と社会が105時間、体育が90時間となっていますが、この差を埋めるために交換教科を増やすといった対応ではなく、例えば校務分掌の分担で負担を考慮する工夫も考えられます。																																																	
交換教科の年間授業時数が同じ場合にも、その教科のどちらかで少人数授業を実施する場合、宿題点検やテスト採点等を2人ですのと1人ですのとでは、その負担に差ができることもあります。このような場合には宿題点検は担任がするとか、学年分掌で配慮するなど、あらかじめ役割分担を明確にしておくことが重要です。																																																	
学級増などにより特別教室不足の学校において <u>少人数指導が物理的に困難な場合は同室複数指導により実施。</u> 児童の突発的な生活指導上の問題、または教員の急な出張や年休などが生じた場合の対応方法は、あらかじめ基本的な動きについて共通理解を。																																																	
例) その日の少人数授業は取り止めて当該学級に戻し、少人数担当教員が代わりに授業を行うなど、自習を増やさない対応が考えられます。																																																	
時間割の変更や調整が必要になった場合の工夫。																																																	
時間割変更が特定の時間割担当者に過度の負担とならないよう、例えば時間割担当を複数配置しておくことなどの対応も考えられます。また、小中連携の一つの取組として中学校の時間割変更のやり方を参考にする方法もあります。																																																	
教員の打合せの工夫。																																																	
例) 朝の打合せや職員会議の効率化を図るなど、学校全体の会議を見直し精選するとともに、校内LANでの共通連絡事項の配信、休み時間や授業の空き時間に教員同士が話しやすい机の配置やメモの活用など日頃の情報交換の工夫も重要です。																																																	

平成24年度兵庫型教科担任制について

「兵庫型教科担任制」は、教員との人間関係の広がりや学習の深まりによる子どもたちの成長、多面的な児童理解に基づく組織的・協力的な指導の充実、発達や学びの連続性を確保するための小中の円滑な接続などにおける教育効果が高いシステムであることが、平成21・22年度の実践研究から明らかになっていくところ。さらに、平成23年度の推進状況調査から、実施年数の経過につれ教員のチーム意識が高まり、組織的な学習指導や生活指導が充実するなど、兵庫型教科担任制の教育効果を生かした取組の充実が図られていることも明らかになりました。（中頁参照）

本県では、そうした学校の工夫や取組の充実について、兵庫型教科担任制全県協議会や地区別協議会の開催に加えて、実践研究のまとめ（平成23年1月）兵庫型教科担任制のリーフレット（平成23年5月）時間割実施例データベース（平成23年8月）等を配布するとともに、各教育事務所に小・中連携推進専門員を配置し、課題解決に向けた運用上の工夫点について周知を図ってきました。

平成24年度兵庫型教科担任制推進における実施教科については、これまでの成果を踏まえ平成23年度と同様とします。また、課題解決を図る運用上の工夫点等について、さらに周知を図るため、本リーフレットを作成しました。学校においては、これまで配布した資料とともに全教職員の共通理解のもと、各校の実情に応じた「兵庫型教科担任制」を創意工夫しながら推進されるとともに、子どもたちの発達や学びにおいて義務教育9年間を見通した効果的な教育が展開されることを期待します。

平成24年度 実施教科

教科担任制
国語、算数、理科、社会から2教科以上を選択し、担任の交換授業を実施することを原則とした教科担任制を実施する。

教員の組織的・協力的な指導を充実させる観点から、これまでの小学校における専科指導の成果に加え、学級担任の交換授業を柔軟に促進する。
 (例1) 2学級の場合、国語と算数の交換、又は社会と理科の交換等
 (例2) 3学級の場合、社会、理科、体育の交換、又は国語、算数、理科・家庭の交換等
 但し、下記については、学校の実情に応じて弾力的に交換授業等を行うことも可能とする。
 上記教科において専科指導を行っている場合、上記以外の教科を加えて交換授業を実施することも可能とする。
 5、6年合計3学級や1学年5学級、7学級の場合などは、2学級単位に分割して交換授業を行い、残りの1学級は上記4教科のいずれかで専科指導を行い、その専科指導時数と同程度、学級担任が他の学級（学年）を指導することも可能とする。

少人数授業
算数、理科、国語から1教科以上を選択し、学年や学級を少人数学習集団に編成する少人数授業（同室複数指導を含む）を実施する。

平成23年度から実施教科には変更はありませんが、これまで周知してきた運用上の工夫に留意し、より教育効果の高い教育課程を編成してください。（裏面参照）

平成23年度「兵庫型教科担任制」推進状況調査結果まとめ

調査時期 平成23年8月 調査対象 兵庫型教科担任制実施校

「兵庫型教科担任制」への具体的な取組について

1 校内体制

【成果】

高学年における組織体制づくり、授業時数の管理や時間割の円滑な調整、また一部の教員の過重負担に配慮した役割分担などが、概ね9割以上の学校において推進されており、実施年数が長いほどその割合も増加している。参観授業やオープンスクール等、兵庫型教科担任制を保護者や地域に向けて授業公開を行っている学校が全体の約75%に達する。

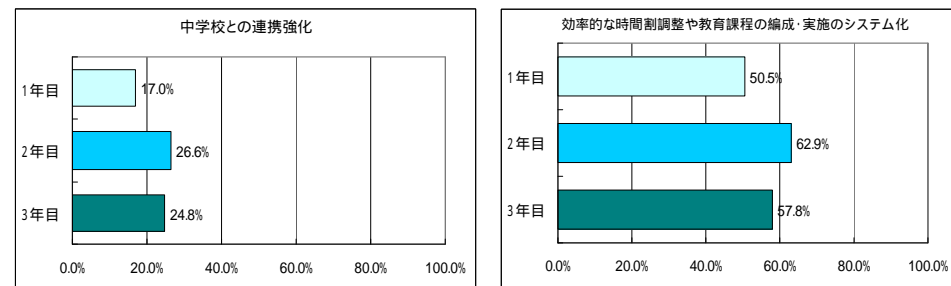
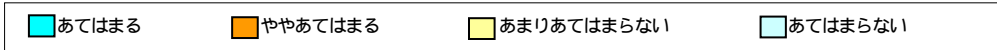
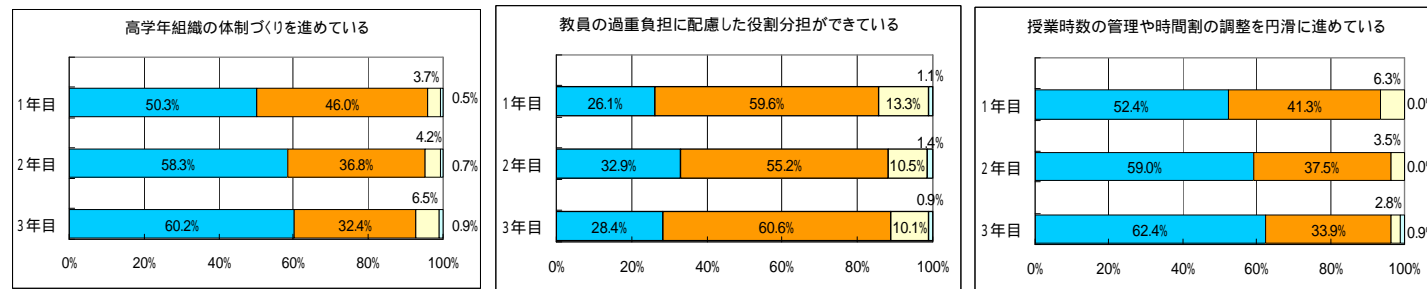
【課題】

中学校との連携の強化に関しては、小・中学校双方向からのアプローチが今後の課題となっている。

(小・中連携推進専門員の配置、地区別協議会開催等)

行事や教員の出張や年休、突発的な生活指導事案の発生時などの時間割の調整にも工夫が必要である。

(配慮事項及び運用上の工夫について(3)参照)



グラフは実施率

は成果、
は課題、
は課題への改善策 を表す

自由記述から

教員のチーム力や学年意識が向上した。

小中学校9年間を意識した授業ができるようになった。

評価方法等の共通理解ができ、より客観的に評価ができるようになった。

行事や教員の出張や年休、突発的な生活指導事案の発生時など時間割の調整が煩雑である。

学年3、5、7学級などの奇数学級や5、6年合計3学級など交換授業の組合せ、特別教室の配当及び特別支援学級との交流授業の調整等の条件によっては、時間割編成が煩雑になる。

【兵庫型教科担任制を経験した卒業生の状況】

兵庫型教科担任制を経験した卒業生の状況について、「中1ギャップが軽減した」、「中学校の教科担任制に違和感なく移行できた」等、回答校の約9割が小中学校の円滑な接続がなされていることを表す意見を進学先の中学校から得ている。

2 学力向上の推進

【成果】

交換授業により担任教員の担当教科数が減った分、教材研究の深化や指導法の改善等によって教員の専門性を発揮した学習指導が行いやすくと、9割以上の学校において回答している。

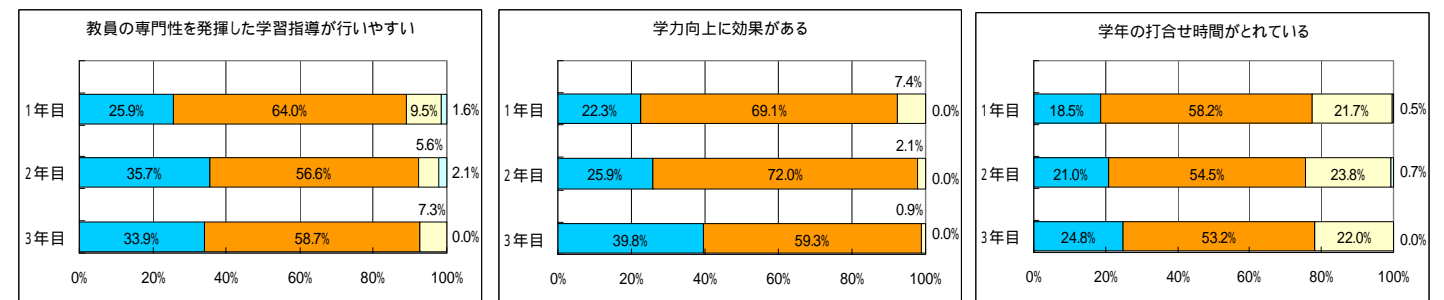
ほぼ全ての学校において兵庫型教科担任制が学力向上に効果があるという回答があり、実施年数が長いほどその割合は増加している。

中学校への準備や授業の理解度の向上等、回答したほぼ全ての学校が保護者・地域から好意的な意見を得ている。

【課題】

授業内容や方法、また進度調整等、学習に関する学年の打合せ時間を確保することに課題がある。

(配慮事項及び運用上の工夫について(3)参照)



自由記述から

交換授業によって教員が担当する教科数が減ったり、複数学年を担当した場合の教科の系統性を意識したりすることから、教員の教材研究の深化等による教科の専門性や授業力が向上した。

少人数指導や同室複数指導により、きめ細かな学習指導ができた。

「多くの教員に関わってもらえて子どもが喜んでいる」、「中学校への準備としてよい」、「授業中質問しやすくなった」、「授業がよく分かる」等、回答したほぼ全てが学校の保護者や地域から好意的な意見を得ている。

学習に関する打合せ時間が確保しづらい。

3 生活指導の充実

【成果】

全ての学校において複数の教員の目で組織的に生活指導が行われており、実施3年目のほぼ全ての学校においては児童理解の深化など、生活指導に効果があると回答している。

交換授業等の教科担任制を実施しながらも、約9割の小学校が学級担任制の良さを生かした学年経営について工夫を行っている。

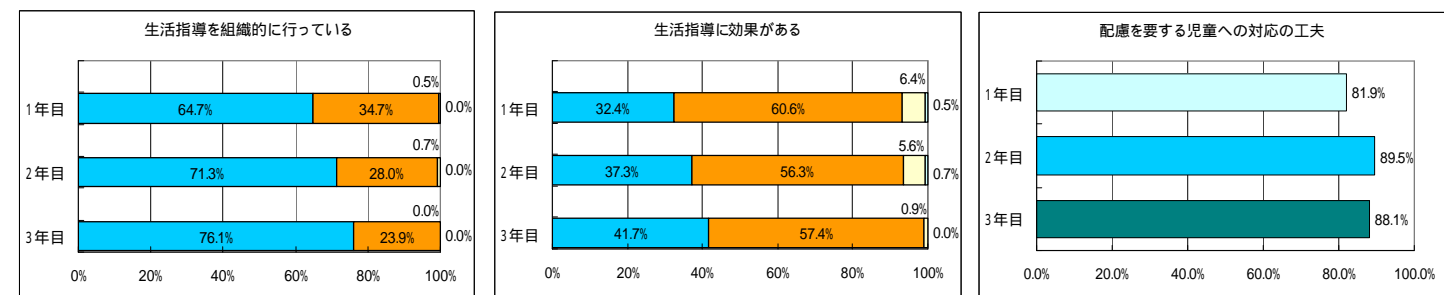
8割以上の学校において、配慮を要する児童への対応の工夫を行っている。

【課題】

生活指導に関する情報交換等、学年の打合せ時間を確保することに課題がある。

学級担任が交換授業等で他学級の児童とのかかわりが増える分、自学級の児童と触れ合うための工夫が必要である。

(配慮事項及び運用上の工夫について(1)参照)



グラフは実施率

自由記述から

兵庫型教科担任制の交換授業等における複数の教員による多面的な児童理解とその情報交換のもと、個に応じたきめ細かな生活指導ができた。

生活指導に関する打合せ時間の確保がしづらい。